

いち押し本 **熱く** アピール

ほのぼのとした雰囲気なか、おすすめの一冊を紹介する発表者と観客 4 日・ジュンク堂書店那覇店



ビブリオバトル

発表者がおすすめの一冊を持ち寄って本の魅力を紹介し、参加者全員で一番読みたくなった本を決定する「ビブリオバトル」が県内の大学やカフェで流行している。新たな本と出会えるだけでなく、人とつながることが魅力だ。

ビブリオバトルは2007年に京都大学で発案、今では全国大会を開催するまで発展した。「人を通して本を知る、本を通して人を知る」をキャッチコピーにあらずいだけでなく、本との出会いや影響、どういふ人に読んでほしいかなど自分の考えを語るのが特徴。年齢や職業を問わず楽しめる事も人気の一つだ。

票獲得しチャンプ目指せ!

■大人も子どもも

「残り1分。何を話そうかな」と慌てる発表者もいれば、5分すぎても話が止まらない発表者も。その度に30人近い観客からは声援がとどく。4日にジュンク堂書店那覇店であったビブリオバトルは発表者7人がバトルを展開した。発表後のディスカッションでは

1 ビブリオバトルのルール
発表者がおすすめの本を持って集まる

2 順番に一人5分間で本を紹介する

3 それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2〜3分行う

4 全ての発表が終了した後、「どの本が一番よみたくなったか」を基準に投票を行い、チャンプ本を決定する



ちょっとひり辛口なコメントでチャンプ本を紹介した崎浜さん＝4日・ジュンク堂書店那覇店

「心に響いた1行を教える」と発表者への質問から、中学生が紹介した本に50代の男性は「おじさんも楽しめる本かな」と問いかけた。この日、チャンプ本に選ばれたのは興南中学2年生の崎浜由依さんが紹介した『復活! 虹北学園文芸部』。「本バカ」と自称するほどの本好きで、「私が読んできたギャグ本のなかでは一番面白い本」と良さをアピールした。母親の由美子さん(45)は「本好きなのは知っていたが、こんなに本番に強い子とは」と娘の別な一面に驚く。

■同僚の意外な面

那覇市にある医療機器販売の琉球光和は、毎月第3土曜日に社員同士でビブリオバトルを楽しむ。本を通して多様な分野に触れ、人生経験を深めることを目的に3年前から始め、今月で29回目になる。テーマは毎月異なり、挑戦や恋愛など仕事とは無関係の分野を選んでいる。

「同僚の人柄が分かっておもしろい」と話すのは我如古夏希さん(25)。特に恋愛やクリスマスなど軟らかい分野だと本音が強まる傾向にあり、「恋愛は毎年入

首都決戦予選会の参加者募集

琉球大学付属図書館はビブリオバトル首都決戦へ向けて、予選会の参加者を募集している。県内在住の大学生・大学院生が対象で申込みは31日締め切り。問い合わせは同館、電話098(895)8167、メールkikaku@lib.u-ryukyu.ac.jp

れるテーマ」と笑う。諸喜田利沙さん(26)も「この人がこの本をうとイメージが一変する同僚も多く興味深い」と話す。諸喜田さん自身も「アルケミスト夢を旅した少年」を紹介した時には「ちよつと背伸びした本だったけど、整理して発表できた」とさりと振り返るが、我如古さんは「いやいや、斬新な紹介方法でビックリ。諸喜田さんの違う一面をみたかも」と冷やかした。(村井規儀)